

生涯研修プログラム「症例から学ぶ」 III. 症例から学ぶ生殖医学

2) 不妊

抗精子抗体

自治医科大学助教授 柴 原 浩 章

不妊女性の約3%に血中精子不動態抗体が存在し、PCT不良・IUI抵抗性である。不妊男性にも約3%に射出精子上の精子結合抗体が存在し、PCT不良・受精障害と関連することがある。性差を考慮し対応する。

[症例1 女性(31歳)]0経妊、不妊期間5年。前医で原因不明不妊症の診断。Timed intercourse (TI)数周期、IUI6周期不成功で当科紹介。内分泌検査、HSG、精液所見は正常。CMは質・量とも正常だが、PCT不良。妻血中精子不動態抗体陽性、夫直接イムノビーズテスト(D-IBT)陰性。妻の血中抗体価(SI₅₀値)の経時変動(5.5~10.8)から中抗体価群と判定。反復IUIを3周期施行も妊娠に至

らずIVF-ET適応とした。初回採卵7個。卵丘細胞に付着する血液成分を十分洗浄し媒精、受精5個。Day3にえた形態良好胚5個のうち2個を移植し、単胎妊娠が成立した。

[症例2 男性(33歳)]妻(31歳)0経妊、不妊期間4年。前医で原因不明不妊症の診断。TI数周期、IUI10周期の後、腹腔鏡検査でも原因特定できずIVF施行。採卵数9個、精液所見も正常だったが、受精卵得られず当科紹介。妻血中精子不動態抗体陰性、夫D-IBT陽性(IgG 98%, IgA 64%, IgM 8%)。Hemizona assayで夫精子の透明帯結合能障害を確認のうえ、ICSI-ETを施行した結果、単胎妊娠が成立した。